

慶雲五色雲

播磨にて岩くもといふ、九州にて比古太郎と云、國の大山なり。近江及越前にて信濃太郎と云、加賀にていたちぐもといふ、安房にて峯雲と云、今案にこれら異名、夏雲のたつ方角をさしていひ、又其形によりてなづく。

〔令義解儀制〕 凡祥瑞應見，若麟鳳龜龍之類，依圖書合大瑞者，隨卽表奏。○中及木連理之類不須送者，所在官司案驗非虛，具畫圖上。

若有不可獲
不_レ可_ニ親附之_一者
謂雲氣。

喜式治部司瑞略
晉書天文云氣瑞氣一曰慶雲若煙非煙若雲非雲郁々紛々蕭索輪囷是謂慶雲亦曰景雲此喜氣也太平之應

〔塵袋〕一慶雲トイフハ何ナル雲ズ、人ヲモ慶雲ト云歟如何、史記云、若煙非煙、若雲非雲、郁々紛々トシテ蕭索輪菌タリ、是ヲ謂慶雲ト云ヘリ、景雲トモカク、孝經ノ援神辨ニ曰、王者德至山陵則景雲出、孫柔之曰、一名ハ慶雲ト云々、人ヲ慶雲ト云フコトハ、良處子曰、慶雲ヲバ父母ニタトフ、楚辭ノ注ニ云、慶雲ヲバ喻尊顯云々、チ、ハ、ニモコレヲタトヘテ、慶雲ト云フベキニヤ、尊顯ニタトフト云フハ、必ズ父母ニモカギラズ、師君等ニヨソフベキニヨソ、夫雲ヲ桃李ニタトヘタル事モアリ、同體ノ事歟、

〔日本書紀 二十
四〕二年正月壬子朔旦、五色大雲滿覆於天而闕於寅

續日本紀文武慶雲元年五月甲午備前國獻神馬西樓上慶雲見詔大赦天下改元爲慶雲元年高年老疾並加賑恤又免壬寅年以往大稅及出神馬郡當年調又親王諸王百官使部已上賜祿有差獻神馬國司守正五位下猪名真人石前進位一階初見慶雲人式部少丞從七位上小野朝臣馬養三階並賜絶十疋絲二十絢布三十端鑛四十口

續日本紀六
元明和銅六年十二月乙巳近江國言慶雲見丹波國獻白雉仍曲赦二國